

近代東京の銅像と都市景観：銅像写真集  
『偉人の倂』を中心として

KOMEIE, Shinobu / 米家, 志乃布

---

(出版者 / Publisher)

法政大学文学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Bulletin of the Faculty of Letters, Hosei University / 法政大学文学部紀要

(巻 / Volume)

84

(開始ページ / Start Page)

71

(終了ページ / End Page)

88

(発行年 / Year)

2022-03-10

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00025586>

# 近代東京の銅像と都市景観

## ——銅像写真集『偉人の倂』を中心として

米 家 志乃布

### 概 要

本研究では、銅像写真集『偉人の倂』のデータ分析から、東京の都市空間における銅像立地の実態を明らかにし、銅像と東京の都市景観の関係を論じることを目的とした。先行研究では、東京には銅像が乱立し、都市景観との不調和が起こっていたことが指摘されている。そこで筆者は2つの点に注目した。第一に銅像の設置された都市空間の特徴である。第二に当時の人々が認識する、銅像と都市景観の関係である。東京府全体で見ると東京市の山の手地区に銅像が集中し、立地した場所は広場・公園・社寺境内や学校など公共の場所に多かった。また銅像の施主や制作者は、はじめに設置場所を決めてそれに調和する銅像を制作するというよりは、後になって銅像の場所を探し、可能な場所に設置していた。これらの分析・考察の結果、新聞や知識人達からの東京の銅像批判はあるものの、当時の人々にとって銅像の制作は「偉人の顕彰」が第一であり、彼らにとって、周囲の景観との調和はそれほど重要視されていなかったと結論付けた。

キーワード：銅像、公共空間、西洋文化、都市景観、近代東京

### はじめに

19世紀末以降、日本社会は西洋文化の大きな影響を受けた。近代東京においても、新しい西洋文化としての銅像やミュージアム、博覧会など公共空間における文化芸術活動が盛んになる。この経験は、人々にとって、新たな風景の在り方をもたらした。伝統的な江戸という空間のうえに、近代東京の風景が上書きされ、人々にとってのモダンな新しい空間が出現したともいえる。とりわけ、日本の首都である東京には、「雨後の筍」のように銅像が出現し、全国の四分の一にのぼる銅像が建立された（木下 2011）。

日本における彫像制作は、江戸時代までは主に仏像彫刻など、仏教芸術史の流れに位置付けられる（田中 2018）。当時の人々にとって、仏の像を眺め拝む場所は、寺院の本堂や宝物殿などの閉ざ

された空間であり、信仰の対象だった。一方、ヨーロッパでは、広場や公園、市庁舎前などの公共空間に王族貴族、偉人や英雄の銅像が設置され、不特定多数の人々が、オープンな場所で日常的に彫像を目にすることができた。これらの像は、後世の人々に、その姿や功績を伝えるため、風雨にさらされても保てるよう、屋外に銅像として建立された（ハーグローク 2003）。

近代日本・近代東京の銅像については木下直之（2011, 2014）の研究が重要である。木下は、明治以降、日本でもパリやロンドンなど多くの欧米都市に倣って銅像が野外に建てられるようになったとして、その重要な点に、誰を建てるのか（像主）、誰が建立を企てるのか（施主）、そして誰がつくるのか（制作者）の3つが重要であるとした。著書では、様々な銅像の制作にかかわるトピックについて詳細に紹介している。

日本近代史と銅像の関係を論じた平瀬礼太

(2011)の研究も興味深い。「銅像受難の近代」というタイトルにもあるように、戦時中の銅像供出を軸に、銅像たちが受けた様々な受難のトピックを挙げ、銅像を近代日本の社会史の文脈から論じている。そして、近代日本の人々にとって、公共空間にある銅像は、目に見える形で「国民国家」を理解する装置だったとしながらも、国家がコントロールしきれない複雑な状況を呈していたことが論じられている。さらに、最新の英語文献としては、Saaler (2020) による近代から現代までの日本の銅像を国民国家史との関連で概観した研究もある。

木下 (2014) によれば、銅像の建設が、偉人の顕彰を目的とする以上、誰を顕彰するのか、その価値判断が重要になる。その意味で、施主こそが銅像制作における決定的な存在であったとした。さらに、どこにその銅像を設置するのか。通常、銅像の設置場所として第一に考えられる場所は、像主にゆかりのある公共空間である。像主の偉業が、ナショナルなものなのか、リージョナルなものなのか、という点にかかわらず、人々が像主の偉業を称えることのできる空間こそ、ふさわしいと考えられるだろう。

しかし、東京には様々な場所に銅像が乱立し、整然たる状況とは言えなかった。文学者の永井荷風は、その様を、西洋都市の模倣、醜いものとして捉えていた (永井 1915)。彫刻家の荻原守衛も、その著作「東京市の銅像を論ず」のなかで、東京の銅像は欠点だらけ、都市の装飾としての意義がなく、建設地の適否も考慮されていないと論じた (荻原 1909)。いずれも西洋留学をし、西洋文化を体験した人々の言である。1913 (大正 2) 年 6 月 11 日の朝日新聞朝刊では、「銅像の大流行 不調和な建設地」という記事が掲載された。木下 (2014) や平瀬 (2011) の著作においても、これらの文献や新聞記事が紹介され、銅像の制作やその設置場所には、多くの議論が巻き起こり、世論は混迷したことが述べられている。

ここで想起されるのは、やはり西洋留学を終えて帰国した和辻哲郎が、西洋文化と日本の都市の

「不釣り合い」を指摘し、日本の風土の独自性を強調したことである (和辻 1935)。和辻の挙げた事例は、西洋由来の路面電車や自動車と日本の伝統的な街並みの「不釣り合い」であり、これこそが、日本の都市の成り立ちと西洋の都市の成り立ちの違いであるとした。

哲学者である和辻哲郎の感じた「不釣り合い」と文学者の永井荷風や芸術家の荻原守衛が論じた東京の銅像に関する批判は同じなのか。それとも異なる観点なのか。西洋由来の銅像が、近代東京の街並みのなかにどのように取り込まれ、当時の人々の目に触れることになったのか。西洋においては、都市の広場などの公共空間に銅像がある。東京ではそうではないのか。このような疑問は、銅像のみで考えるのではなく、東京の都市景観との関係で検討する必要がある。本稿は、西洋文化である銅像を通して、近代東京の都市景観の特徴を浮かび上がらせる試みともいえる。

そこで筆者は、戦前期に刊行された銅像写真集を用いて、東京の都市空間における銅像の実態を具体的に明らかにする。そのうえで、当時の人々が認識した銅像と東京の都市景観の関係を論じることにしたい。その際、以下の二つの点に注目する。

第一に、銅像の設置された都市空間の特徴である。実際にどのような土地に設置されたのか。東京全体の銅像の設置状況をできる限り把握し、その銅像の設置場所の特徴を考察する。たとえば、東京ではどのような「公共空間」に銅像が多いのか。あるいは、実は私的な空間にも多いのか。銅像の存在する空間そのものの特徴にも注目したい。

第二に、銅像が置かれた景観の解明である。銅像は単独で評価されるものというよりは、周囲の景観のなかの一要素として、人々に認識される。昭和初期の東京の景観のなかで、銅像はどのように認識されていたのか。人々は銅像と都市景観の関係をどのように考えていたのか。

まず、首都東京の様々な場所において、銅像になった人々 (像主) を概観し、その特徴を考察す

る。次に、東京の銅像の立地状況から、東京のどこに最も銅像の設置が多いのか、銅像建設地の地域的特徴を述べる。そのうえで、銅像と東京の都市景観の関係を論じる。その際、絵葉書や写真帖など、周囲の環境と銅像の関係を把握できる資料を用いて考察する。

本稿では、銅像の立地を客観的に把握するための資料として、銅像写真集『偉人の<sup>おもかげ</sup> 倂』（二六新報社、初版1928年（昭和3）刊行・第2版1929年（昭和4）刊行）を利用した。戦前の日本の銅像に関する写真集としては他に類書のない膨大なデータが掲載されており、昭和初期時点での東京における銅像立地を復元するうえで最適の史料である。なお、本史料は、『偉人の倂』第1巻図版篇・第2巻資料編（2009年）として復刊されており、その第2巻には「研究資料」（澁谷2009）が付されている。本研究ではそのデータを参照した。

## I 『偉人の倂』の刊行目的とその内容

『偉人の倂』の発刊の趣旨を見てみよう。明治以降の文化芸術の流れのなかで、銅像建設が流行し、「英雄大人物」「傑士偉人」「国家興隆に貢献せる俊傑」がその縁故ある土地や場所に数多く建立された。またその銅像制作は、明治・大正・昭和にわたって、「巨匠名手」が心血注いだものでもある。この日本芸術の結晶である「全国に基布建設せる先哲古賢の銅像」を、「立體的コロタイプ版に付し」さらに「人物の傳記時代の解説を施し」て刊行したとある。その際、「日本歴史の精粹」「芸術の観賞」に於いて「遺憾なし」と述べる。つまり、『偉人の倂』の刊行には、一般の人々に対する歴史教育と芸術普及という二つの目的があった。

構成は写真と偉人伝の二部構成になっており、詳細な目次、総計632体の銅像、322頁におよぶ偉人伝が続く。B4横長の分厚い本である。写真集は、銅像の写真、像名、所在地、建設年、原形作者、建設者、銘記、碑文などが記載されてい

る。偉人伝の部分は、人物によって分量に差はあるが、有名な政治家や軍人、実業家、学者などを始め、地方の名士など、これを読むだけで、彼らの銅像になった姿と合わせてその伝記も読むことができる。

『偉人の倂』写真集の巻頭頁には、「明治天皇御尊像」（宮内省内部）、次に4人の皇族が掲載されている。その後は比較的有名な人物の銅像が続く。像主の出身地や置かれた場所、職業などは様々であり、その調査数は膨大である。このような他に類を見ない銅像写真集の刊行が実現した背景には、出版社である二六新報社の情報収集のネットワーク、そしてすでに偉人の銅像が、日本社会のなかに浸透していたことが指摘されている（田中2009）。

ところで、1932（昭和7）年に東京市は近隣の五郡を編入して市域を拡大し、東京市35区となった。「大東京」の誕生である。この範囲が現在の東京都23区の原型となった。『偉人の倂』初版は、この「大東京」出現の4年前の発刊である。

## II 近代東京における銅像数と像主の特徴

### (1) 銅像写真の掲載数と銅像建設年

表1では、『偉人の倂』に掲載されている東京府の銅像写真を掲載順で一覧にした（論文末に掲載 写真番号1 明治天皇（宮内省）は除く）。全部で169体あり、なかには銅像ではなく木像や大理石像、記念碑もあった。写真番号19と95は同じ銅像であるが、両者の写真は異なるため、そのまま表に掲載した。表1を見ると、現在でも残る皇居外苑の楠木正成像（19）や上野公園の西郷隆盛像（94）など、現代の私たちでも知っている有名な銅像の他に、戦前の東京には多くの銅像が存在したことがわかる。前述の1913年6月11日朝刊の朝日新聞の記事には、「東京市のみにも公園其他公衆の眼にふるべき銅菅の数は四五十臺に上るべく」とあり、本史料発刊の1928年時点

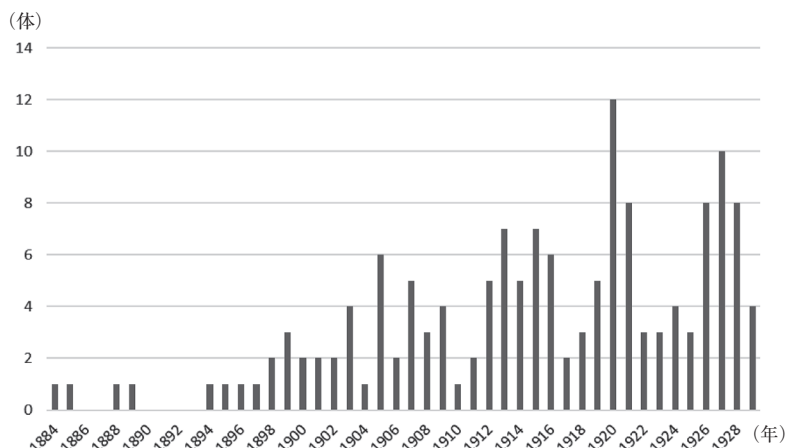


図1 『偉人の倂』にみる建設像数

(表1より筆者作成)

には、およそ3倍も増加している。

銅像写真集『偉人の倂』にどれほど多くの銅像写真が網羅されていたのか。近い年次の比較として、『大東京年鑑 昭和八年版』の「大東京主要銅像及胸像」にリストアップされている銅像に○を付した(表1参照)。『大東京年鑑』に記載のある銅像のなかで、59体が『偉人の倂』の銅像と一致した。その他、『偉人の倂』には掲載されていないものとして、山形有朋像(陸軍省付近)、辻新次像(教育会館内)、高田早苗像(早稲田大学内)、安倍磯雄像(早稲田大学グラウンド)があった。それでも合計63体であり、『偉人の倂』の掲載数には遠く及ばない。

いつ頃から東京にここまで銅像が増加したのか。図1には、1928年までの銅像建設年の判明するもの(建設年不明16体)をグラフで図示した。最も早い年代で建設が確認できたのは、22の二宮尊徳木像の1853年であり、その後は確認できなかった。そこで、明治になってから、初めて銅像建設年の確認ができる1884年以降の建設数をグラフで示した。1894年からは毎年建設されている。1894年は日清戦争、1904年は日露戦争である。いずれも日本は戦勝ムードとなり、軍人の銅像の定着に拍車をかけたと思われる。写真番号141の神田須田町万世橋駅前にある広瀬武夫中佐像もまさに日露戦争の功労者である。

この頃になると、銅像の建設設置が目にも余るようになり、内務省は1900年「形象取締規則」を発令した。これは、太平洋戦争の終戦直後まで、銅像の設置を制限する重要な規則である(平瀬2011)。しかし、1900年以降も『偉人の倂』にみる東京の銅像数は大きく増加しており、この規則の影響を見ることはできない。

## (2) 像主の出身地と職業

表2では、像主の出身地を現在の都府県別にまとめた。史料中には当時の府県名や旧国名など不統一で記載されているが、出身地をわかりやすく

表2 像主出身地

(人)

|      |    |      |   |        |     |
|------|----|------|---|--------|-----|
| 東京都  | 22 | 埼玉県  | 4 | 福島県    | 3   |
| 京都府  | 10 | 静岡県  | 4 | 青森県    | 2   |
| 鹿児島県 | 9  | 千葉県  | 4 | 岡山県    | 2   |
| 新潟県  | 8  | 茨城県  | 4 | 福井県    | 2   |
| 佐賀県  | 7  | 福岡県  | 4 | 和歌山県   | 2   |
| 山口県  | 6  | 愛媛県  | 3 | 外国     | 15  |
| 長野県  | 6  | 岐阜県  | 3 | その他・不明 | 17  |
| 熊本県  | 6  | 神奈川県 | 3 | 合計     | 168 |
| 愛知県  | 5  | 兵庫県  | 3 |        |     |

出身都府県のデータは2人以上いるものを示した。

(澁谷朋恵「研究資料」(銅像写真集『偉人の倂』[資料編] ゆまに書房、2009年、408-445頁より作成)



するために現在の都府県に統一した。

これを見ると、東京都が22名と最も多く、次に京都府10名、鹿児島県9名、新潟県8名、佐賀県7名と続く。表2には出身者が2名以上いる都府県のみ挙げた。出身者が1人の都府県や出身地が不明な人物は合計で17名にものぼった。外国の出身者も15名である。全体的な傾向として、像主の出身は日本各地にあり、かなりのばらつきがあった。これは、東京が日本の首都であり、明治以降、東京での「立身出世」を目指して多くの地方出身者が集まっていることに起因する。

それでは、これらの像主はどのような職業が多かったのか。像主の職業別数をまとめたものが表3である。これを見ると、政治家（政治家と軍人の両方の場合は政治家に分類）が39名と最も多く、学術・教育関係が34名、医者・医学者が24名と続く。

医学分野での銅像があまりに多かったため、一つ分野でまとめたものの、学術・教育関係に医学を含めると58名となり、政治家を抜いて最多となる。次に、実業家22名、芸術家15名、軍人13名、天皇皇族6名となる。しかし、天皇皇族は軍人でもあるため、軍人に加えると19名となり、芸術家よりも多い。

表3 像主の職業 (人)

| 職 業  |     | 外国人内訳 | 女性内訳 |
|------|-----|-------|------|
| 政治家  | 39  |       |      |
| 学術教育 | 34  | 4     | 2    |
| 医 学  | 24  | 5     |      |
| 実業家  | 22  |       | 1    |
| 芸術家  | 15  | 2     |      |
| 軍 人  | 13  | 2     | 1    |
| 天皇皇族 | 6   | 1     |      |
| 僧 侶  | 1   |       |      |
| 武 士  | 5   |       |      |
| その他  | 9   | 4     | 3    |
| 合 計  | 168 | 18    | 7    |

(渋谷朋恵「研究資料」(銅像写真集『偉人の錦』[資料編]ゆまに書房、2009年、408-445頁より作成)

「武士」とカウントした像主は、宮城前の楠正成(19)や東京府庁前の太田道灌(32)や徳川家康(33)、池上本門寺の加藤清正(42)など、明治以前の歴史上の人物である。外国人の銅像は、職業は多様であるものの、合計18名いた。なお、ほとんどが男性像である。若干であるが、浅草公園の瓜生若像(215)や麹町区の三輪田高等女学校内にある三輪田真佐子像(214)などの女性像も見られる。

### Ⅲ 近代東京の銅像と都市景観

#### (1) 銅像の建設地とその特徴

東京府における銅像写真の一覧(表1)にある銅像の位置を地図上にプロットした(図2)。本図では、表1にリストアップされた当時の住所を手掛かりに、明治期の地籍図、陸地測量部作成の5,000分の1および10,000分の1地形図から銅像の建てられた場所を探し、「今昔マップ」上で現代地図と比較しながら、銅像の座標を特定した。学校の構内や神社境内に設置された銅像についても、可能な限り、戦前のキャンパスマップ等を参照し、現地調査を行い、特定した。

図2を見ると、東京府下全体ではなく、東京市内に銅像の立地が集中していることは一目瞭然である。また、東京市の郊外に目をむけると、北東部にはほとんど存在せず、南西部方面にまばらに立地している。

東京市15区と郡部別の銅像立地数を確認すると、麹町区が最も多く、49体にのぼる。次に、本郷区26体、下谷区15体と続く。東京市区部全体で見ると、芝区10体、赤坂区8体少し離れて小石川区にも8体ある。牛込区には188の川田龍吉邸内の1体のみである。郡部では、荏原郡が最も多く、42・163の池上本門寺の境内、249・252・450の帝大農学部3体や272の東京高等工業学校内など合計で15体ある。豊多摩郡8体、北多摩郡4体もほぼ学校での立地である。北豊島郡は2体と少なく、東京市養育院内の渋沢栄一像(231)、滝野川町西ヶ原農事試験の沢野淳像(397)

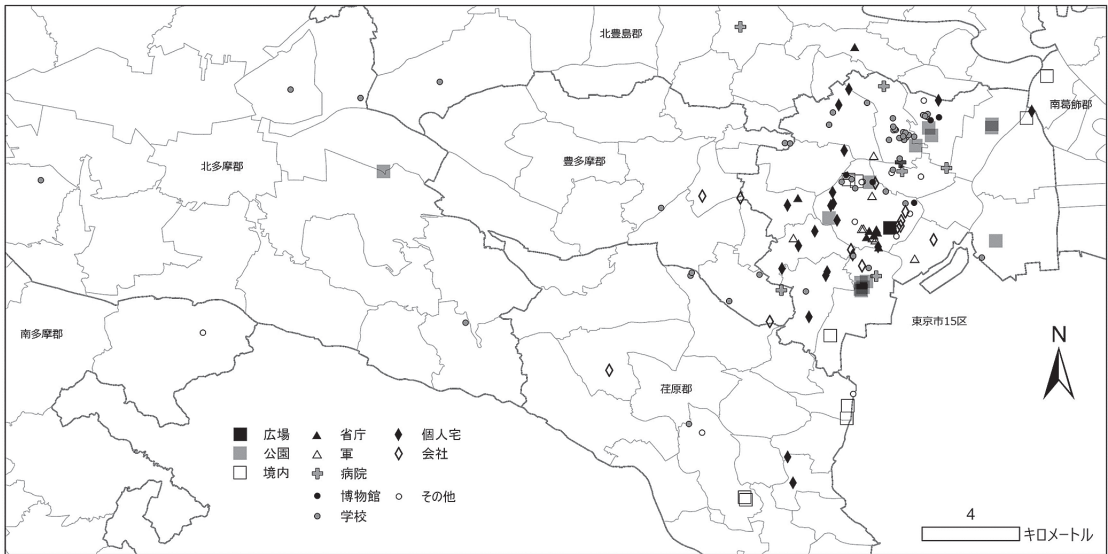


図2 東京府における像の分布

(表1より筆者作成)

である。

これら銅像の立地する地域を、江戸の都市空間との関係から考えてみよう。東京は新しい都市ではなく、江戸の地理空間を引き継いだ都市でもある。麹町区を見ると、銅像の多い地区は、麹町区南東部の官庁地区や東京駅周辺、北西部の麹町となる。前者は、大名屋敷のあった武家地であり、明治維新後、政府の土地となった。後者は、旗本・御家人の地区であったが、明治以後は幕府の役人や下級武士が去った空き地が多かった。いずれも、明治維新以後に衰退した武家地であり、これらの地区には、東京の新しい施設や住宅地が生まれた。これが、銅像設置の多い省庁や学校、個人宅となった。本郷区の東側もかつては大名屋敷のある武家地であり、明治以降、東京帝国大学の敷地となった。下谷区の上野公園もかつては寛永寺の巨大な敷地であった。つまり、東京における銅像の居場所は、かつての武家地や寺社地のあった台地上、山の手が中心であった。

日本橋や京橋のような町人地は、明治以後もそのままの町割りや商業地区として存続し、隅田川以東は工場地帯や住居密集地帯となった。下町には銅像は少なかった。浅草公園の市川團十郎

(295)や深川公園にある尾上菊五郎(518)、京橋区では海軍大学校前の有栖川宮像(5)など、公園や学校などにわずかに存在した。

銅像の立地を場所別に見てみると(図2・図3)、最も銅像の多い場所は学校である。個人宅や会社など、私的な空間にも銅像は多い。他には、公園や軍の施設、官庁省庁や社寺境内、病院、博物館である。このなかで、不特定多数の人々が入り出ることができる「公共空間」といえるものは、公園・社寺境内・広場である。学校や軍施設、省庁や病

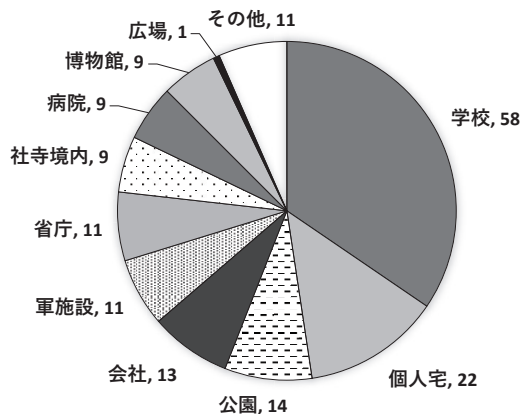


図3 像の設置場所

(表1より筆者作成)

院、博物館などは特定の組織に属する人々の出入りする「公共空間」である。その点で、やはり東京においても、明らかに銅像は公共の場所に多い。日本においても、銅像は公共の場所にあることが相応しい、と当時の人々に考えられていたのであろう。

学校にある銅像は、本郷区や下谷区に多く、その他にもまばらにある。1923（大正12）年の関東大震災で東京市は大きな被害を受けた。下町が多大な被害を受けたこともあり、東京市郊外に人々は移り住んだ。また、東京市内に集中していた学校も、震災の被害で郊外移転をする。その際、荏原郡や豊多摩郡などの西郊に移転した。そのため、学校にある銅像も、これらの郡に確認できるのだろう。

銅像の制作が、「偉人の顕彰」という目的であることを考えれば、最も効果的なのは、その像主の功績に学ぶべき人々の目に触れる場所に配置することである。その点、学術・教育関係に功績のあった人物の銅像は、当然、学校構内に置かれる。たとえば、東京帝国大学や東京美術学校の教授陣、あるいは私立学校等の創設者等である。学校は公共空間ではあるものの、あくまで銅像は各学校の構内にあった。つまり、そこに通学する人々のみ日常的に見ることができる。言い換えれば、特定の人のみ見ることの多い、閉ざされた空間にあった銅像ともいえる。

個人宅の銅像は、麹町区の西側部分や小石川区、赤坂区、麻布区などの山の手地区に見られる。麹町区の番町や平河町、小石川区林町の土方伯爵邸内（233）や赤坂区の大倉邸内（230）など、個人の屋敷地のなかにある当主の銅像である。また、会社企業にある銅像も、麹町区に多い。東京商工会議所内の渋沢栄一（205）や丸の内の日本電報通信社内の光永星郎（564）、八重洲にある古川合名会社の古川市兵衛（182）など、財界の功労者や会社創業者などの銅像である。これらも、学校にある銅像と同様に、その像主が、その組織にとって、重要人物であり、その功績について皆が学ばなければならない人物である。

このような学校や個人宅、会社敷地のなかに数多く存在する銅像こそ、東京における銅像の建設に対して、乱雑な印象を人々に与えた一つの要因だったのか。そう考えるには疑問が残る。なぜならば、これらの銅像は、あくまで閉ざされた空間にあったため、日常的には特定の人々にしか認識されない。東京のより多くの人々が認識できる公共空間での銅像の在り方にこそ、当時の新聞や知識人が酷評した手掛かりがあると思われる。

## （2） 広場・公園・社寺境内にある銅像

そこで、公園や社寺境内などの公共空間にある銅像の具体例を見てみよう。広場には1体、公園には14体、社寺境内には5体ある（図2・図3参照）。

広場の1体は宮城前の楠公像（19）である（写真1）。現在もなお、外苑前広場にある。明治政府によって皇居正門前に設置するに相応しい「中世以来本邦歴史上に著大の関係を有する人物像」として、懸賞金50円で募集された。その結果、東京美術学校の岡倉秋水と川端玉章の考案、高村光雲により制作され、1897年に設置された（木下2011）。昭和初期の東京名勝絵葉書には、楠公像前にいる人々の様子が映しだされている（写真1）。

公園は14体である。今でも東京の銅像として有名な、上野公園の西郷隆盛像（94）（写真2）である。上野公園には小松宮彰仁親王像（2）（写真3）もある。浅草公園の瓜生岩像（215）や市川團十郎像（295）、芝公園には後藤象二郎（104）、板垣退助（164）、小菅智淵（62）などがあった。大隈重信像は芝公園で除幕式を行ったが、その後、早稲田大学に設置される。上野公園の西郷像については、当初、宮城門外に設置する案があった。しかし、これには強い反対があった。彼は逆賊であり、帝京第一の勝地に建築することは許されないとした。さらに、上野公園も相応しくないという反対意見もあった（平瀬2011）。しかし、銅像の設置場所に関しての批判はあったものの、西郷人気は高く、上野公園に銅像が建設された後は、東京の名所として人気を博した。





写真1 「英姿颯爽たる大楠公の銅像（東京名勝）」  
『東京の景観』絵葉書、昭和初期  
(法政大学江戸東京研究センター所蔵)



写真3 上野公園・東照宮参道横にある  
小松宮彰仁親王の騎馬像  
(2021年12月8日筆者撮影)



写真2 上野公園の西郷隆盛像  
(2021年12月8日筆者撮影)

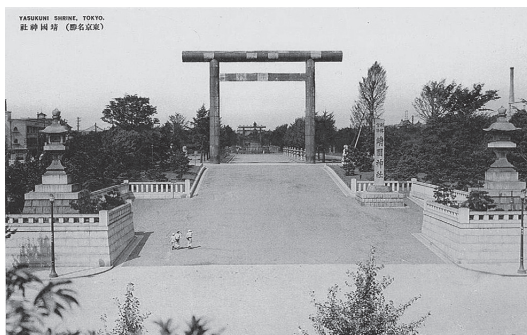


写真4 「靖国神社（東京名勝）」『東京の景観』絵葉書、昭和初期  
(法政大学江戸東京研究センター所蔵)

社寺境内の銅像としては、麹町区の靖国神社にある大村益次郎像（98）が有名である（写真4）。1888年の建設である。国内での西洋式銅像の第一号であり、芸術作品としての評価は高い。ただし、靖国神社の前に設置されることには批判があった。戊辰戦争で祀られる代表者のようであるとか、参道の中央に位置するため、天皇が参拝するときに足元を通るのはいかがなものか、という批判である（木下2011）。昭和初期の東京名勝絵葉書にも、参道と大鳥居の中央の奥に立つ大村像がうかがえる（写真4）。

池上本門寺境内の加藤清正（42）、星亨（163）

は興味深い。星亨像は大正14（1925）年、加藤清正像は大正15（1926）年の設置である。なぜ2人の銅像が池上本門寺にあるのか。清正は「熱心なる日蓮宗の宗徒」（偉人伝）だった。また、星の銅像については「あの覇気満々であった日蓮のお寺に星さんの銅像は面白い」「この銅像が物でもいったら今の政友会の中には顔向けならぬ人が多かろう」という記事もある（1922年6月18日読売新聞）。いずれも戦時供出で失われたが、星の墓所や清正の供養塔は現在もある。池上本門寺は、それぞれの像主ゆかりの地ではあるかもしれないが、積極的な理由というよりは、彼らが宗徒

だったから本門寺は設置場所を提供したという理由かもしれない。

示唆的な事例として、隅田村の木母寺境内にある榎本武揚像（109）が挙げられる。周知のように、榎本武揚は、江戸出身の旗本、幕末の箱館戦争で活躍するも敗戦、その後、明治政府に取り立てられ、千島樺太交換条約の締結のためにロシアにも渡った人物である。明治政府で数々の要職につき1908（明治41）年、没した。榎本の墓所は東京都文京区の吉祥寺にある。彼と木母寺の関係は不明である。

1981年11月25日の読売新聞朝刊の「とうきょうの名所歩き」に、木母寺の榎本武揚像保存に関わる話が掲載されている。「銅像は大正二年に建てられた。その場所になぜ木母寺境内が選ばれたのかかわからない。武揚は晩年、向島に住んで、ここで明治四十一年、七十二歳の生涯を閉じた」とある。記事によれば、想像される木母寺と榎本との関係は、晩年に近くに住んで散歩コースだったぐらいである。銅像の製作者は、函館の五稜郭に建てると聞いていたが、いつのまにか木母寺境内になったという談話を残している。

銅像制作および設置の目的を考えると、個人宅や会社には、その家や組織に無関係な人物の銅像を建てることはないだろう。その点で、木母寺境内の榎本武揚像は本稿の論点にとって極めて示唆的である。銅像の設置には、像主の功績と場所が無関係でもいい、という人々の意識を読み取ることができる。

以上、広場・公園・社寺境内の銅像を見てきたが、楠木正成像については、はじめに設置する場所を決め、それに調和するかたちで人物を選定し制作したケースであることがわかる。しかし、それ以外の像は、その場所にあった銅像を選ぶのではなく、公園の一角の空き地や社寺境内など、施主が銅像の置けるオープンスペースを探して場所を選定しているのであろう。1913年6月11日の朝日新聞朝刊の記事にあるように「像の建場に窮す」とは、まさにこの状況の多さを物語る記述といえる。

### （3）『大東京寫真案内』にみる寺内正毅像

『偉人の倂』に掲載されている写真は、基本的に銅像の写真であり、周囲の景観を確認することができない。それでは、これらの銅像は、東京の都市景観の中にどのように存在したのか。学校の敷地等に建立された銅像は、それぞれの学校の構内にあったため、東京名所の絵葉書や写真帖等の出版物には、その写真は掲載されていない。

大東京になった翌年、1933（昭和8）年発行の『大東京寫真案内』に掲載されている三宅坂周辺の写真（写真5）を見てみよう。この写真の中心は電柱である。前面には三宅坂停車場から発車した路面電車とその軌道、右側に寺内正毅の騎馬像が映る。寺内正毅像（138）は大正12（1923）年に三宅坂に建てられた。

この写真の位置する場所の地形図を前述の楠公像の位置と比較したものが図4である。写真は、三宅坂の東側の地点から西向きに撮影したものである。図4の地形図を見ると、寺内像が、街の一角に忽然と出現した銅像（地図記号㊦）であることが一目瞭然である。一方、楠公像は、宮城前の整備された広場の中央にある。

寺内正毅の銅像の建立には、そもそも強い批判があった（平瀬2011）。宮城の向かいにある三宅坂の一等地に「官僚軍閥」の像が建つのはいかなものか、私人の銅像を邸宅内に建てるのは許されるとし、公道に面し、宮城に向かい建つ一角に建てること、つまりその設置場所への批判であった。これは、銅像の像主の功績と設置場所が合致

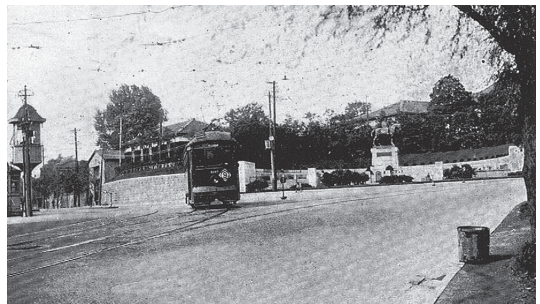


写真5 「麹町区 三宅坂付近」1933（昭和8）年  
（『復刻版大東京寫真案内』、2011年、博文館新社より引用）



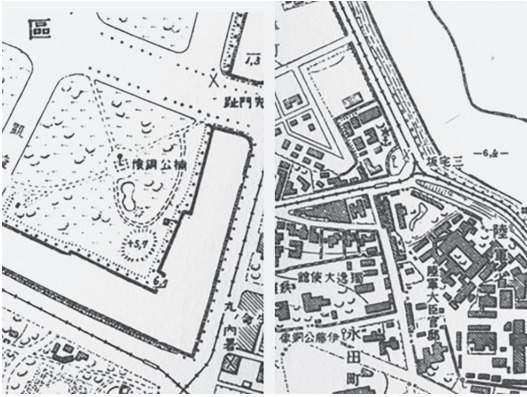


図4 宮城前広場の楠正成銅像(左)と三宅坂の寺内正毅銅像(右) 1937(昭和12)年

(『明治・大正・昭和東京1万分の1地形図集成』1983年、柏書房より引用)

しないという批判でもある。しかし、銅像建設寄付金は順調に集まり、寄付金は軍人ではなく実業家を中心だったとして、陸軍は批判を受け入れず、銅像は設置された。銅像の周囲にはベンチも置かれ、休憩所も設置された(写真5)。

表1に「騎馬像」は7体ある。有名な楠公像をはじめ、軍人皇族達(2, 3, 4)の像に加え、大山巖像(137)、福島安正像(146)、そして寺内正毅像である。『偉人の倂』のリストにはないが、昭和5(1930)年には山県有朋像がやはり騎馬像として、陸軍省近く、陸軍参謀本部構内に設置される。この位置は、大東京のシンボルとなる新議事堂に近い陸軍用地である。騎馬像は、通常の銅像に比べて馬が加わる分、大きい。山県有朋像は、故郷の山口県萩町には明治31(1898)年に建立された(『偉人の倂』)。大正11(1922)年に山県が没した後、東京市内にも銅像建設の話はあったが、関東大震災で計画は止まっていた。その後、山県の業績に相応しいとされる、天皇と国会をつなぐ用地が建設地に選ばれた(木下2017)。

大村像や楠公像は、比較的早い時期に、靖国神社、宮城前に建てられた。しかし、東京市内の銅像が増加するに従い、銅像への批判、とりわけ銅像の設置場所には批判が多くなる。ヨーロッパ的な都市の広場や近代的に整備された社寺境内な

ど、そこに建立された偉人・英雄の立像や騎馬像こそが、多くの人々が目にする「公共空間」における銅像の在り方と考えるならば、寺内正毅騎馬像は、そのような例ではない。西洋留学を経験した人々、銅像制作について学識のある人々には、この光景は「滑稽」に映るだろう。しかし、寺内像は、旧陸軍用地、しかも宮城を向かいにした一等地にある公共の都市景観のなかに存在しており、しかも、そこに毎日通って寺内銅像のお世話をする陸軍お雇いの「三宅坂に鳴る名物婆さん」(1929年12月19日読売新聞朝刊)まで報道され、人々の認知度は十分に高かった。

三宅坂停留所で乗降する人々や電車のなかから外の風景を眺める人々には、寺内正毅像はどのように映ったのだろうか。そもそも、東京の都市景観のなかで、銅像との「不釣り合い」は所与の条件でもあった。なぜならば、『偉人の倂』の発刊の趣旨にもあるように、人々にとって、銅像を見ることは、第一に、その像主の業績を学び、讃えることにあった。それは、日本の伝統的な「<sup>いしぶみ</sup>碑」の意識に近い。西洋のように、銅像とその置かれた周辺の景観を含めて、像主の偉業を称え、「美観」としてとらえる意識が乏しかったと考えられるからである。

再び1913年6月11日の朝日新聞朝刊の記事を参照すると、「銅像が出来たる後建設地を物色するを以て像と背景の間に不調和ありて滑稽」とある。三宅坂の寺内正毅像の事例は、和辻の云うような、日本の伝統的な都市景観と西洋文化の「不釣り合い」というよりは、日本的な「碑」に西洋の銅像を当てはめ、景観との調和よりも、銅像の像主の功績そのものを顕彰することに重点があった結果の「不調和」ともいえる。東京の人々、つまり日本人の伝統的な顕彰意識が、そこに影響していたとも考えられよう。

## おわりに

本研究では、銅像と近代東京の都市景観の関係を論じた。従来の研究では、近代日本のナショナ

リズムと銅像設置の関係に関する論点はあったが、本稿では、実は、多くの東京の銅像は、公共の場においてさえ、都市景観になじませる西洋的な思想とはかけ離れていたことを論じた。様々な組織や個人によって、東京の銅像は建設・設置されており、それがむしろ、都市の無秩序、いわゆる銅像と都市景観の「不調和」を引き起こしていた。

戦時中、多くの銅像は金属供出により、撤去され溶かされた。東京都内の銅像は、1941（昭和16）年、1942（昭和17）年の金属特別回収運動、1944（昭和19）年8月以降の金属非常回収、そして同年末から1945（昭和20）年8月までの空襲による破壊消滅、と段階を踏んで消滅していく。戦後にはGHQにより、軍国主義のイメージの強い銅像は撤去された。追放銅像第一陣は、旧万世橋駅前広場の広瀬中佐像だった。このように、東京の銅像は失われた（東京都公文書館篇2003）。

かつて、東京の山の手地区には、銅像の乱立する、新しいモダンな東京の景観があった。江戸の土地利用から東京への変容に際し、武家地や寺社地が公園や官庁地、公園、学校、個人宅などに変容したことにより、これらの地区に銅像も存在した。偉人の銅像に合わせる形で都市景観が形成されたのではなく、すでに存在した都市空間のなかに、西洋文化の影響を色濃く受けた銅像達が次々と出現したと考えられる。

永井荷風が「東京の都市は模倣の西洋造と電線と銅像とのためにいかほど醜くされても（中略）口には言えぬが、やはりなんとなく東京らしい固有な趣があるような気がする」（永井1915）というように、西洋建築や電線、銅像が東京の景観を変えてしまっているとはいえ、このような雑然とした無秩序な風景のなかに、東京の人々の意識を読み取ることができる、と筆者は考えた。これは、星野（2020）が指摘した、オギュスタン・ペルクによる都市東京の「非図的な性質」を踏まえた、東京の「非都市性」という論点にもつながっていく。

江戸東京研究を進めるうえで、近代東京は江戸

から何を引き継ぎ、何を捨てたのか、という変化と継承の論点は欠かせない。しかし、変わったように見えて本質的に変わらないもの、変わらず継承しているように見えて、実は変わってしまったものも重要である。近代東京の銅像の在り方は、江戸東京を問い直す意味で、ひとつの重要な事例を提供するともいえる。

今後の課題として、近代東京における公共空間の在り方をより深く考察する必要がある。本稿でも、誰が公共空間を演出するのか、すべきなのか、という問題は残された。また、アトラス作成のために、多くの銅像立地関係の地図を試作したが、紙面および字数の関係で掲載できなかった。別の機会に発表することとしたい。

#### 【付記】

本稿は、法政大学江戸東京研究センター「江戸東京アトラスプロジェクト」（代表：福井恒明）の成果の一部である。

#### 謝 辞

本研究は、2019年度人文科学研究科地理学専攻「歴史地理学研究Ⅰ」（春学期・米家担当）において、受講生（吉原圭佑・鈴木海斗・鷹野真子・小野清楓・鈴木綾・風間寿子）と共に行った作業がもたっています。また、作成した地図は2019年10月5日に開催したプロジェクトのワークショップで発表しました。ワークショップに参加して下さったすべての皆様に御礼申し上げます。

人文科学研究科史学専攻修士課程（当時）の鷹野真子氏には関係史料の収集にもご協力いただきました。

また、デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻修士課程（当時）の増田政弘氏にはワークショップでの発表および分析データの収集・整理等にご尽力いただきました。記して感謝いたします。

#### 参考文献

- 荻原守衛 1909. 東京の銅像を論ず. (彫刻真髓 1964)
- 木下直之 2011. 東京の銅像を歩く. 祥伝社.
- 木下直之 2014. 銅像時代——もうひとつの日本彫刻史. 岩波書店.
- 澁谷朋恵 2009. 研究資料. 408-453. (北澤憲昭総監修・田中修二監修・解説 2009. 銅像写真集 偉人の傍 [資料篇] ゆまに書房)
- 田中修二 2009. 解説. 395-406 (北澤憲昭総監修・

- 田中修二監修・解説 2009. 銅像写真集 偉人の  
 俤〔資料篇〕 ゆまに書房)
- 田中修二 2018. 近代日本彫刻史. 国書刊行会.
- 東京都公文書館編 2003. 都市紀要 39 レファレン  
 スの杜. 204-219.
- 永井荷風 1915. 日和下駄一名東京散策記. (岩波文  
 庫 2006. 荷風随筆集 (上))
- ハーグロウ・グ・ジュン 2003. パリの彫像. ピエー  
 ル・ノラ編／谷川稔監訳『記憶の場——フランス  
 国民意識の文化＝社会史 3』岩波書店. 223-259.
- 平瀬礼太 2011. 銅像受難の近代. 吉川弘文館.
- 星野 勉 2020. 「風土」から見た都市「東京」の珍  
 しさ. 安孫子信監修『風土 (Fudo) から江戸東  
 京へ』法政大学出版局. 23-39.
- 和辻哲郎 1935. 風土. (岩波文庫 2020)
- Saaler, Sven 2020. *MEN IN METAL. A Topography  
 of Public Bronze Statuary in Modern Japan.*  
 BEILL.

## 資 料

- 朝日新聞 1913年6月11日記事「銅像の大流行 不  
 調和な建設地」「像の建場に窮す」
- 北澤憲昭総監修・田中修二監修・解説 2009. 銅像写  
 真集 偉人の俤〔図版篇〕 ゆまに書房.
- 北澤憲昭総監修・田中修二監修・解説 2009. 銅像写  
 真集 偉人の俤〔資料篇〕 ゆまに書房.
- 中村舜二編 2006. 『大東京年鑑』第5巻. ゆまに書  
 房.
- 博文館編集部 2011. 『復刻版大東京寫真案内』博文  
 館新社.
- 読売新聞 1922年6月18日記事「故星亨氏の銅像が  
 本門寺境内に建て廿一日がその除幕式」
- 読売新聞 1929年12月19日記事「三宅坂に鳴る名  
 物婆さん わしは元帥の副官将校たちは子供扱  
 ひ」
- 読売新聞 1981年11月25日記事「とうきょうの名  
 所歩き 榎本武揚像物語」



表1 『偉人の俤』に掲載された東京府の像一覧（銅像、木像、大理石像、碑）

●騎馬像

| 写真番号 | 像 名           | 所在地              | 建設年  | 大東京年鑑 |
|------|---------------|------------------|------|-------|
| 2    | 故小松宮彰仁親王御尊像●  | 東京市上野公園          | 1912 | ○     |
| 3    | 故有栖川宮熾仁親王御尊像● | 東京市参謀本部構内        | 1903 | ○     |
| 4    | 故北白川宮能久親王御尊像● | 東京市近衛歩兵第一、二連隊衛門前 | 1903 | ○     |
| 5    | 故有栖川宮威仁親王御尊像  | 東京市築地海軍大学校前      | 1921 | ○     |
| 12   | 秩父宮雍仁親王陛下御尊像  | 東京市赤坂区表町御殿内      | 1928 |       |
| 19   | 楠木正成銅像●       | 東京市宮城前           | 1897 | ○     |
| 22   | 二宮尊徳木像        | 東京市四谷区左門町八四 二宮徳方 | 1853 |       |
| 28   | 大石良雄銅像        | 東京市芝区高輪泉岳寺境内     | 1921 | ○     |
| 32   | 太田道灌銅像        | 東京市東京府庁内         | 1920 | ○     |
| 33   | 徳川家康銅像        | 東京市東京府庁内         | 1920 | ○     |
| 41   | 日蓮上人銅像        | 東京府洗足池畔          | 1924 | ○     |
| 42   | 加藤清正銅像        | 東京府下池上本門寺内       | 1926 | ○     |
| 61   | 伊能忠敬先生測地遺功表   | 東京市芝区芝公園山内       | 1889 |       |
| 62   | 小菅智淵銅像        | 東京市芝区芝公園内        | 1899 | ○     |
| 94   | 西郷隆盛銅像        | 東京市上野公園          | 1898 | ○     |
| 95   | 楠木正成銅像（19と同じ） | 東京市丸の内馬場先門宮城前    | 1897 | ○     |
| 97   | 品川弥二郎銅像       | 東京市麹町区九段坂上       | 1907 | ○     |
| 98   | 大村益次郎銅像       | 東京市九段靖国神社境内      | 1888 | ○     |
| 101  | 大久保利通哀悼碑      | 麹町区清水谷公園内        | 1884 |       |
| 104  | 後藤象二郎銅像       | 東京市芝公園内          | 1903 | ○     |
| 105  | 大隈重信銅像        | 東京市芝公園内          | 1917 | ○     |
| 109  | 榎本武揚銅像        | 東京府下隅田村梅若木母寺境内   | 1913 | ○     |
| 110  | 陸奥宗光銅像        | 東京市霞が関外務省内       | 1907 | ○     |
| 111  | 大木喬任銅像        | 東京市司法省内          | -    | ○     |
| 132  | 松田正久銅像        | 東京市麹町区西日比谷町司法省内  | 1916 | ○     |
| 133  | 山田顕義銅像        | 東京市麹町区西日比谷町司法省内  | 1898 | ○     |
| 134  | 川路利良銅像        | 東京市麹町警視庁前        | 1911 | ○     |
| 135  | 川上操六銅像        | 東京市九段坂上          | 1905 | ○     |
| 136  | 仁礼景範銅像        | 東京市霞ヶ関海軍省        | 1909 | ○     |
| 137  | 大山巖銅像●        | 東京市参謀本部内         | 1919 | ○     |
| 138  | 寺内正毅銅像●       | 東京市麹町区三宅坂        | 1923 | ○     |
| 141  | 広瀬武夫・杉野孫七像    | 東京市神田区須田町        | 1910 | ○     |
| 146  | 福島安正銅像●       | 東京市麹町区靖国神社境内遊就館内 | 1894 |       |
| 147  | 西郷従道銅像        | 東京市霞ヶ関海軍省内       | 1909 | ○     |
| 148  | 秋山真之銅像        | 東京市海軍令部軍令部長室     | 1905 |       |

|     |             |                               |      |   |
|-----|-------------|-------------------------------|------|---|
| 149 | 川村純義銅像      | 東京市海軍省内                       | 1909 | ○ |
| 150 | 大隈重信銅像      | 東京市外早稲田大学構内                   | 1907 | ○ |
| 152 | 桂太郎銅像       | 東京市小石川区拓殖大学講堂前                | 1913 |   |
| 153 | 後藤新平銅像      | 東京市芝区愛宕山放送局                   | 1927 |   |
| 154 | 井上勝銅像       | 東京市東京駅前（東京駅丸の内口前の広場）          | 1914 | ○ |
| 155 | 前島密銅像       | 東京市麹町区富士見町通信博物館内              | 1916 | ○ |
| 163 | 星亨銅像        | 東京府下池上本門寺内                    | 1925 |   |
| 164 | 板垣退助銅像      | 東京市芝区芝公園                      | 1913 | ○ |
| 168 | フェノロサ銅像     | 東京市上野美術学校                     | 1920 |   |
| 170 | 大村西崖銅像      | 東京市上野東京美術学校                   | 1928 |   |
| 171 | 加納夏雄銅像      | 東京市上野東京美術学校                   | 1919 |   |
| 172 | 石川光明銅像      | 東京市上野東京美術学校                   | 1917 |   |
| 173 | 海野勝珉銅像      | 東京市上野東京美術学校                   | 1919 |   |
| 174 | 橋本雅邦銅像      | 東京市上野東京美術学校                   | 1914 |   |
| 179 | 三井八郎右衛門銅像   | 東京市神田区泉町泉橋橋慈善病院内              | 1926 |   |
| 182 | 古河市兵衛銅像     | 東京市麹町区八重洲町古川合名会社              | 1900 |   |
| 183 | 安田善次郎銅像     | 東京市麹町区平河町六の十二安田邸内             | 1911 |   |
| 188 | 川田小一郎銅像     | 東京市牛込区新小川町男爵川田龍吉邸内            | 1896 |   |
| 198 | 伊沢修二記念碑     | 東京市小石川区大塚窪町東京高等師範学校々庭         | 1919 |   |
| 204 | 中野武宮銅像      | 東京市麹町区有楽町 1-1 東京商工会議所内        | 1919 |   |
| 205 | 渋沢栄一銅像      | 東京市麹町区有楽町 1-1 東京商工会議所内        | 1905 |   |
| 208 | 長谷川泰銅像      | 東京市本郷区梅園町 2 番地湯島公園内           | 1916 | ○ |
| 209 | 佐々木東洋銅像     | 東京市神田区駿河台杏雲堂医院内               | 1920 | ○ |
| 210 | 石黒忠恵・松本良順銅像 | 東京市麹町区九段上陸軍軍医学校               | 1915 |   |
| 211 | 佐藤進銅像       | 東京市本郷区お茶の水順天堂病院玄関前            | 1905 |   |
| 212 | 佐藤尚中銅像      | 東京市本郷区お茶の水順天堂病院玄関前            | 1908 |   |
| 213 | 佐藤泰然銅像      | 東京市本郷区お茶の水順天堂病院玄関前            | 1908 |   |
| 214 | 三輪田真佐子銅像    | 東京市麹町四番町三輪田高等女学校校内            | 1921 |   |
| 215 | 瓜生岩子銅像      | 東京市浅草区浅草公園内                   | 1901 | ○ |
| 216 | 奥村五百子銅像     | 東京市麹町区飯田町牛ヶ淵愛国婦人会構内           | 1913 | ○ |
| 224 | 兼松房次郎銅像     | 東京市国立村東京商科大学講堂内               | 1927 |   |
| 230 | 大倉喜八郎銅像     | 東京市赤坂区葵町大倉邸内                  | 1913 |   |
| 231 | 渋沢栄一銅像      | 東京市外板橋町東京市養育院構内               | 1925 | ○ |
| 232 | 馬越恭平銅像      | 東京府荏原郡目黒町大字三田 347 番地大日本麦酒株式会社 | 1920 |   |
| 233 | 土方久元銅像      | 東京市小石川区林町土方伯爵邸内               | 1916 |   |
| 234 | 山尾庸三銅像      | 東京市麻布区東鳥居坂町山尾子爵邸              | -    |   |

|     |                     |                          |      |   |
|-----|---------------------|--------------------------|------|---|
| 235 | 平田東助銅像              | 東京市九段坂下牛ヶ淵公園内            | -    | ○ |
| 238 | レオポルド・ミュルレル銅像       | 東京市東京帝国大学医学部             | 1895 |   |
| 239 | コンドル銅像              | 東京市東京帝国大学工学部             | 1923 |   |
| 240 | ミリアス・スクリバ銅像         | 東京市東京帝国大学医学部事務所前         | -    |   |
| 241 | エルヴィン・ベルツ銅像         | 東京市東京帝国大学医学部事務所内         | -    |   |
| 242 | チャールス・デツケンソン・ウエスト銅像 | 東京市東京帝国大学工学部             | -    |   |
| 243 | エー・ダイバース銅像          | 東京市東京帝国大学理学部科学教室内        | 1900 |   |
| 244 | アーサー・アリバスト銅像        | 東京市本郷区第一高等学校校庭           | 1903 |   |
| 245 | ブチール銅像              | 東京市本郷区第一高等学校校庭           | 1902 |   |
| 246 | ボアソナード銅像            | 東京市麹町区西日比谷町東京地方裁判所構内     | -    |   |
| 247 | ウィリアム・ヘンリー・ストーン銅像   | 東京市麹町区富士見町 5-13 通信博物館内   | 1915 |   |
| 248 | アツペール銅像             | 東京市麹町区西日比谷町東京地方裁判所構内     | -    |   |
| 249 | ヤンソン銅像              | 東京府下上目黒駒沢帝大農学部           | 1902 |   |
| 251 | メツケル銅像              | 東京市赤坂区青山喜多町陸軍大学校構内       | 1912 |   |
| 252 | オスカル・ケルネル銅像         | 東京府下駒沢帝国大学農学部            | 1915 |   |
| 253 | 杉浦六右衛門銅像            | 東京府下淀橋六桜社内               | 1924 |   |
| 257 | 西村勝三銅像              | 東京市本所区須崎町西村別邸跡           | 1905 |   |
| 262 | 徳富猪一郎銅像             | 東京府荏原郡入新井町新井宿 2832 番地自邸内 | 1928 |   |
| 264 | 三島毅銅像               | 東京市麹町区一番町二松学舎内           | 1899 |   |
| 270 | 江原素六銅像              | 東京府麻布区元村町麻布中学校           | 1927 | ○ |
| 271 | 加藤弘之銅像              | 東京市麹町区下二番町 41 加藤成之方      | 1915 | ○ |
| 272 | 手島精一銅像              | 東京府下荏原郡衾町大岡山東京高等工業学校     | 1921 | ○ |
| 273 | 松原新之助銅像             | 東京市深川区越中島水産講習場内          | 1912 | ○ |
| 274 | 中島半次郎銅像             | 東京府豊多摩郡戸塚町下戸塚第一早稲田学院内    | 1927 |   |
| 275 | 井上円了銅像              | 東京市小石川区東洋大学内             | 1906 | ○ |
| 276 | 原龍太銅像               | 東京市東京帝国大学工学部内熱機関実験室前     | 1914 |   |
| 283 | 中村不折銅像              | 東京市下谷区中根岸 125 自邸内        | 1926 |   |
| 285 | 川端玉章銅像              | 東京市上野東京美術学校校庭            | 1914 | ○ |
| 288 | 成島柳北銅像              | 東京市本所区向島須賀町長命寺境内         | 1885 |   |
| 291 | 金田伝兵衛銅像             | 東京市赤坂区青山青葉金田伝次郎方         | -    |   |
| 294 | 梅若実銅像               | 東京府下品川町海晏寺境内             | 1912 | ○ |
| 295 | 市川團十郎銅像             | 東京市浅草区浅草公園内              | 1918 | ○ |
| 296 | 塚原周造銅像              | 東京市九段上通信博物館内             | 1925 | ○ |
| 298 | 奥田義人銅像              | 東京市下谷区茅町市立第一実科高等女学校      | 1928 |   |
| 299 | 中谷弘吉銅像              | 東京市麹町区富士見町五丁目通信博物館内      | -    |   |

|     |           |                          |      |   |
|-----|-----------|--------------------------|------|---|
| 300 | 小松謙次郎銅像   | 東京市九段上通信博物館内             | -    |   |
| 301 | 下村房次郎銅像   | 東京市麹町区富士見町五丁目通信博物館内      | -    |   |
| 305 | 安部磯雄銅像    | 東京市外早稲田大学グラウンド内          | 1927 |   |
| 308 | 田口和仁銅像    | 東京市東京帝国大学医学部解剖学教室隣       | 1907 | ○ |
| 309 | 大沢岳太郎銅像   | 東京市東京帝国大学医学部解剖学教室        | 1922 |   |
| 310 | 下山順太郎銅像   | 東京市東京帝国大学医学部薬学教室         | 1915 | ○ |
| 311 | 三浦守治銅像    | 東京市東京帝国大学医学部病理学教室        | 1918 |   |
| 312 | 浜田玄達銅像    | 東京市東京帝国大学医学部附属病院産婦人科病室内庭 | 1905 |   |
| 313 | 佐藤三吉銅像    | 東京市東京帝国大学医学部附属病院外科病院前    | 1924 |   |
| 314 | 青山胤通銅像    | 東京市東京帝国大学医学部構内           | 1920 | ○ |
| 315 | 土肥慶蔵銅像    | 東京市麹町区下二番町四六自邸内          | 1927 |   |
| 316 | 宮本叔銅像     | 東京市本郷区駒込動坂町駒込病院内         | 1920 |   |
| 317 | 岡田和一郎大理石像 | 東京市麹町区三番町三六自邸内           | 1921 |   |
| 318 | 緒方正規銅像    | 東京市東京帝国大学医学部衛生学教室内       | 1921 | ○ |
| 319 | 入沢達吉銅像    | 東京市小石川区駕籠町二二六自邸内         | 1920 |   |
| 320 | 石黒忠恵銅像    | 東京市赤坂区葵町三番地大蔵高等商業学校内     | 1920 | ○ |
| 321 | 橋本綱常銅像    | 東京府下渋谷町赤十字病院内            | 1909 | ○ |
| 322 | 高木兼寛銅像    | 東京市麻布区烏居坂町男爵高木兼寛邸内       | 1912 |   |
| 326 | 今祐銅像      | 東京市芝区慈恵会医科大学内            | -    |   |
| 349 | 大川平三郎銅像   | 東京市麹町区永楽町大川田中事務所         | 1923 |   |
| 350 | 大橋佐平銅像    | 東京市麹町区九段下大橋図書館内          | 1901 | ○ |
| 352 | 星野錫銅像     | 東京市四谷区旭町東京建築信用組合事務所内     | 1924 |   |
| 353 | 阿部泰蔵銅像    | 東京市麹町区有楽町一の一             | 1916 |   |
| 355 | 大隈綾子銅像    | 東京市早稲田大学大隈講会館内           | 1927 |   |
| 360 | 佐藤志津銅像    | 東京市本郷区菊坂町女子美術学校内         | 1915 |   |
| 366 | 大築尚志銅像    | 東京市小石川区陸軍造兵廠             | -    | ○ |
| 371 | 市川紀元二銅像   | 東京市東京帝国大学医学部構内           | 1908 |   |
| 392 | 湯原元一銅像    | 東京府下中野町東京高等学校            | 1928 |   |
| 393 | 三好晋太郎銅像   | 東京市東京帝国大学工学部内燃機関実験室前     | 1914 |   |
| 394 | 上原六四郎銅像   | 東京市小石川区東京高等師範学校          | 1918 |   |
| 395 | 鈴木於菟平銅像   | 東京市麹町区元衛町外国語学校内          | 1927 |   |
| 397 | 沢野淳銅像     | 東京府下瀧野川西ヶ原農事試験所内         | 1907 |   |
| 414 | 佐野常民銅像    | 東京市芝区日本赤十字社              | 1899 |   |
| 426 | 松本虎雄訓導殉難碑 | 東京府北多摩郡井ノ頭公園内            | 1920 |   |
| 434 | 石垣隈太郎銅像   | 東京市赤坂区溜池三会堂内             | 1927 |   |
| 448 | 横井時敬銅像    | 東京市赤坂区青山南町六の十二横井邸内       | 1906 |   |



|     |            |                          |      |   |
|-----|------------|--------------------------|------|---|
| 450 | 松井直吉銅像     | 東京府下上目黒駒場農科大学構内          | 1915 |   |
| 474 | 立花寛蔵銅像     | 東京市赤坂区葵町大倉高等商業学校         | 1922 |   |
| 477 | 渡辺辰五郎銅像    | 東京市本郷区湯島六丁目十番地東京裁縫女学校内   | 1905 |   |
| 480 | 陶山斌二郎銅像    | 東京府下渋谷町府立第一商業学校          | 1927 |   |
| 516 | 窪全亮銅像      | 東京府南多摩郡稲城村東長沼            | 1913 |   |
| 518 | 尾上菊五郎銅像    | 東京市深川区深川公園               | 1916 | ○ |
| 519 | 桃中軒雲右衛門銅像  | 東京府荏原郡品川町妙国寺境内           | 1920 |   |
| 520 | 川上音次郎銅像    | 東京市下谷区谷中墓地内              | 1913 |   |
| 544 | 日比翁助銅像     | 東京府下荏原郡駒沢町新町三越クラブ内       | 1922 |   |
| 547 | 西野恵之助銅像    | 東京市芝区白金三光町自邸内            | 1921 |   |
| 552 | 玉塚豊子銅像     | 東京府下入新井宿玉塚邸内             | 1926 |   |
| 553 | 玉塚栄次郎      | 東京府下入新井宿玉塚邸内             | 1926 |   |
| 563 | 佐藤慶太郎銅像    | 東京市上野東京府美術館内             | 1926 |   |
| 564 | 光永星郎銅像     | 東京市麹町区丸の内仲通十号館日本電報通信社内   | 1921 |   |
| 566 | 後藤武夫銅像     | 東京市京橋区南八丁堀日本魂社内          | 1926 |   |
| 625 | 佐藤三吾銅像     | 東京市四谷区新堀江町四谷区役所構内        | 1920 |   |
| 629 | ジェンナー銅像    | 東京市上野博物館構内               | 1904 |   |
| 631 | ジャンヌ・ダルク銅像 | 東京市九段上仏英和女学校構内           | -    |   |
| 632 | ヴィルヘルム二世銅像 | 東京市小石川区林町六十三番地土方邸内       | -    |   |
| 637 | 水原漸銅像      | 東京市神田区表猿楽町八番地            | 1928 |   |
| 638 | 小山作之助銅像    | 東京市神田区駿河台鈴木町東京音楽学校分校教場校庭 | 1929 |   |
| 640 | 本多庸一銅像     | 東京府豊多摩郡渋谷町緑岡青山学院構内       | 1928 |   |
| 669 | 刑部真琴銅像     | 東京府北多摩郡田無町田無尋常高等小学校内     | 1928 |   |
| 688 | 沢柳政太郎銅像    | 東京府南多摩郡砧村成城学園内           | 1929 |   |
| 690 | 白井雨山銅像     | 東京市上野公園東京美術学校々庭          | 1929 |   |
| 691 | 小川平吉銅像     | 東京市麹町区内幸町一丁目五番地小川邸内      | 1926 |   |
| 696 | 望月圭介銅像     | 東京府下南品川一丁目四番地            | 1929 |   |

(澁谷朋恵「研究資料」(銅像写真集『偉人の傍』[資料編] ゆまに書房, 2009年, 408-445頁, 『大東京年鑑』昭和八年版(中村舜二編『大東京年鑑』第5巻, 2006年, 511-514頁より作成))

## Statues and the Urban Landscape in Modern Tokyo: With Special Reference to the Photo Album of Statues, “Portrait of Great People”

KOMEIE, Shinobu

### Abstract

Japanese society has been greatly influenced by western culture since the end of the 19th century. Western culture can still be seen in modern Tokyo where there is an abundance of statues, museums, expositions, and other cultural and artistic activities in public spaces displaying western culture. This experience brought about a new way of looking at the landscape for the people.

The purpose of this study is to clarify the actual situation of the location of statues in the urban spaces of Tokyo and to discuss the relationship between the statues and the urban landscape of Tokyo. The study analyses the data from the photo collection of statues, “Portrait of Great People.” Previous studies have noted that the proliferation of statues in Tokyo led to disharmony of its urban landscape.

The study focuses on two points — first, the character of the urban space in which the statues were placed, and second, the landscape in which the statues were placed, as perceived by the people of the time.

In Tokyo Prefecture as a whole, the statues are concentrated in the Yamanote district in Tokyo City, and majority of the statues are located in public places such as squares, parks, precincts of shrines and temples, and schools. In many cases, the statues are erected later and their locations are not decided at the beginning nor made in harmony with the location.

The study concludes that, despite the criticism of Tokyo’s statues by newspapers and intellectuals, the primary purpose of creating statues was to honour great men and not to harmonise with the surrounding landscape.

**Keywords** : Statue, Public Space, Western Culture, Urban Landscape, Modern Tokyo